



諸兄諸姉の奮起を俟つ

原子力関連のお仕事をさせていただくのは、全く理解し難かった。それが他に人が居ないということで、文部省学術局の方で京大の原子炉実験所をどうするかを決める役割を果たせということになったのが運の盡き、いろいろなことをお手伝いさせていただくことになってしまった。

前のとき、学会教科書以外に適切な解説書が見つからず、反原子力派といわれる方が書かれた本だけを勉強して対応せざるを得なかった。どうせ、もう燃料が無くなるから炉は止めてしまいたいと言われる反面、平素は口もきけないような方に「何とかして残して呉れ」と言われて大変混乱した。しっかりした将来計画を出して欲しいと言ってもなかなか出して貰えず、遂に有耶無耶のうちに任期を終えてしまった。

次はもんじゅであった。再び逃げ廻ったが、先輩教授のお弟子に泣かれて遂にお引き受けしてしまったが、すべて公表しながらやりますと宣言して、説明を求めた。その結果、全く初歩的な人為的ミスということになり、研究は即刻再開ということになった。地元民の理解が得られないとかで、未だ研究は再開になっていないが、早く見通しを樹てないと日本のような無資源国は運営が困難になって、国民にエネルギーを安定に供給することが出来なくなってくる。大体、電気代が上がればすべての製品の値段が上がり、輸出品の値段が高くなるから売れなくなってくるから容易なことではない。

兎に角、研究費も潤沢で他の分野の人達が羨ましく思う程なのは、その使命が重大だからであるが、相次いで発生する事故は、科学的にも管理面でも何れも極めて初歩的なことで、一体、日本人はどうなってしまったのだろうかとさえ考えてしまう。

平素、優遇されているのは、仕事が重要だからで、大きな成果が期待されているからで、決してさほど難しいことをやっているからではない。

自分達の義務をしっかり意識すれば、ちゃんと精励するだろうし、手順を誤れば危険が起こることは極めて明白なのだから、手順を書き換えたり、従わなかったりしないよう平素からよく分からせておく必要がある。これが行われていれば事故など起こることは極めて少なくなることは間違いない。国を豊かにするにはしっかりした先見の明を実現してゆくことが絶対に必要である。諸兄諸姉の奮起を俟つ。

